図画工作科学習指導案

指導者　中澤　朋子

１日時　平成２７年1月２８日（水）第５校時　図書室

２学年・組　第５学年１組　３０名

３学習の主題から題材へ

学習の主題
「親しみのある作品などのよさや美しさを感じ取ることを楽しむ」Ｂ（１）

子どものすがた	教師の願い
表現活動では、「上手に描きたい」という意識が強く、自分なりの発想を見いだせない児童が多い。その一方で、技法や技術を学ぶ意欲が高く、水墨画の学習では墨を用いた技法を意欲的に試し、よりよい表現を追求しようとする姿勢が見られた。鑑賞活動では、歌川広重の作品やクレーの作品を鑑賞してきた。線や色、形など、鑑賞の視点を明確にすることで描かれたものから想像することを楽しむ姿が見られた。友達とは、意見交流ができるが、感じ方の違いを認め合うことで見方を深めるまでには到っていない。また、鑑賞への興味･関心は高まったものの、近隣の美術館を訪れた経験のある児童は少数である。	・身近な画家を知ることで、身近な美術作品や暮らしの中にある造形作品などに目を向けていけるようにしたい。 ・友達と簡単な話し合いをしながら鑑賞することで、友達の感じ方に共感したり、感じ方の違いに気付いたりすることで、自分の見方や感じ方を広げてほしい。また、それらの活動を通して、作品鑑賞の視点を広げ、自分なりの見方や感じ方を深めさせたい。 ・様々な作品にふれることで、多様な表し方があることを知り、「うまい」「下手」にとらわれない見方をもってほしい。自分の感じ方や表し方に、自信をもってほしい。

題材名　あなたに見えた色はどんないろ？
～長谷川潔さんの作品を鑑賞し感じたことを伝え合おう～

題材目標

〇長谷川潔さんの作品に出会い、自分なりの見方や感じ方で作品の特徴を感じ取ったり、伝え合ったりする活動を通し、作品のよさや美しさを感じ取ることを楽しむようにする。

〇友達と自分なりの見方や感じ方を伝え合い、それぞれのよさに気づき、認めあうようにする。

題材について

〇本題材は、長谷川潔の作品を３点鑑賞していく過程で、自分なりの見方や感じ方で作品の特徴を感じ取ったり、伝え合ったりする活動を通し、作品のよさや美しさを感じ取ることを楽しむようにすることをねらいとしている。児童は、これまでにクレーの作品や歌川広重の作品鑑賞をすることで、鑑賞への興味が高まり、形や色や動きなど、造形的な鑑賞の視点を根拠に作品のよさを見つめることができるようになった。友達との意見交流では、活発に自分の見方を表現するが、個々の見方の発表にとどまり、他の見方を求めたり、相違をもとに自分の見方を深めたりするまでには至っていない。

美術鑑賞への興味が高まっているこの時期の児童に向け、本時では、横浜美術館で最も所蔵が多く展時の機会に恵まれている長谷川潔の作品を選んだ。水墨画の学習で児童が「黒」という色に親しんでいることから作品の特徴である「黒」という色に向き合わせたり、グラデーションの効果など、造形的な特徴をとらえさせ、モノクロの美しさ、作品がもつ静けさ、モチーフとなっている動植物のあたたかみを感じさせていけるようにしたい。同時に、作品の鑑賞の際は、全体、グループ、最後は個人での鑑賞と段階をへて行う。友達の見方や感じ方にふれ、それらの刺激を受けた自分の心を通して、作品を見つめさせることで感じ方や見方を深めていけると考える。

4　題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	・横浜出身の長谷川潔さんの作品と出会い、黒を基調とした色や繊細な線、モチーフの共通点など、表現の特徴を感じ取ったり、伝え合ったりする活動を楽しんでいる。A
鑑賞の能力	・長谷川潔さんの作品を見て、見つけたことや感じたことを友達と話し合い、共通点や相違点を見つけたり、求めたりする活動を通して、黒を基調とした作品の特徴をとらえるようにする。B

5　研究主題

より身近で手軽に誰でも使用できる情報機器活用について
～TV・OHC などの活用を通して～

（1）

〇出会いの工夫

パソコンに取り込んでおいた３作品を、３台の大型モニターを用いて拡大して見せることにより、鑑賞の意欲を高めるとともに、モノクロの世界に浸ることができるようにする。長谷川潔の作品は、小作品が多いため各作品の部分を取り込み、モニターで部分を拡大して見ることができるようにする。作品の各部分を拡大して鑑賞することにより、同じ黒でも濃淡が異なることや、描かれたモチーフの緻密な描写に注目していけるようにする。

〇見方・感じ方を明らかに示すために

グループ鑑賞は、「保健室に飾りたい作品」「眠る前に見たい作品」という選択肢をもとに、集まったメンバー同士で行う。その際の意見交換はモニター前に集まり、司会をたて、ダイレクトに行う。作品を選んだ根拠となることを、直接画面を指さしたり、拡大したりして示すことで、個々の感じ方や考えが明らかになると考える。

（2）本題材で使用する ICT 機器

・デジタル TV２台・電子黒板・PC

6　指導計画　（2）時間　本時（1/2）

	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
事前	チャレンジ水墨画 ・里芋の葉や野菜・果物を墨の技法を用いて描く活動を通して「黒」という色の濃淡やグラデーションの効果を知り、色の奥深さを知る。		
1時	１水墨画の学習を振り返り、「黒」という色のイメージを話し合う。 ・黒といっても色々な黒があった。 ・黒一色で描くのは絵具より難しい ・黒のイメージが変わった。		
	あなたに見えた色はどんないろ？ 長谷川潔さんの作品を鑑賞し感じたことを伝え合おう		
	２長谷川潔さんの作品を鑑賞し、思ったことや感じたことを話し合う ・作品のほとんどが黒	A	・対象作品と部分をあらかじめパソコンに取り込んでおき３台のデジタル TV で紹介する。

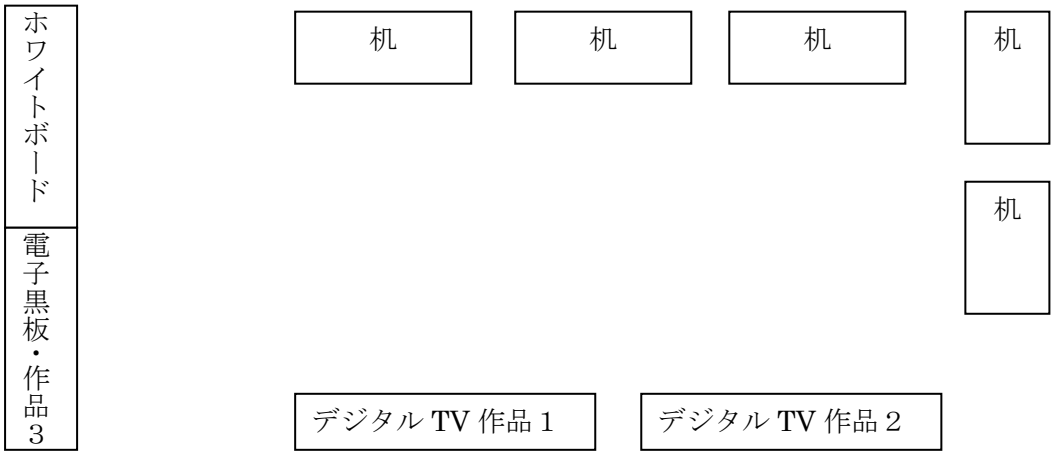
	・黒といってもいろいろな黒がある ・細かく描かれている ・鳥や花や動物が多い 3　3作品から、「保健室に飾りたい作品」を選び、選んだ人同士で選んだ理由を話し合う。 4　3作品から、「眠る前に見たい作品」を選び、選んだ人同士で選んだ理由を話し合う。 5　3作品から、「自分の部屋に飾りたい作品」を選び、理由を鑑賞カードに書く。 ・数人に発表させる 6　長谷川潔の他作品や簡単な経歴を知る。	B	・3作品を自由に鑑賞できるようにする。 ・「黒」という色の視点や線、奥行きを意識させる。 ・グループ内で司会をたて、モニター前で話し合わせる。画像を指し示したり、拡大するなどして、選んだ理由を話し合わせるようにする。異なった意見を一つにしなくてもよいことを助言する。 ・グループの話し合いで出された考えや見方を全体の場で発表させる。 共通項や造形的な特徴が出された場合は、鑑賞の視点となるように板書して残す。 ・観賞カードには自由に記述できるものを用意する。 ・経歴や技法、収蔵されている横浜美術館について簡単に紹介する。

7　準備

児童：筆記用具

教師：長谷川潔作品・デジタルTV2台・電子黒板・PC
　　ホワイトボード・ワークシート

8　場の設定　　場所：図書室



９　本時目標

長谷川潔の作品を鑑賞し、そのよさや美しさを感じとり、話し合ったり、記述したりするなどしてその感じ方を深め、楽しむようにする。

展開

	子どもの学習活動	評価規準	教師の指導
事前	チャレンジ水墨画 ・里芋の葉や野菜・果物を墨の技法を用いて描く活動を通して「黒」という色の濃淡やグラデーションの効果をしり、色の奥深さを知る。		
１時	１水墨画の学習を振り返り、「黒」という色のイメージを話し合う。 ・黒といっても色々な黒があった。 ・黒一色で描くのは絵具より難しい ・黒のイメージが変わった。		
	あなたに見えた色はどんないろ？ 長谷川潔さんの作品を鑑賞し感じたことを伝え合おう		
	２長谷川潔さんの作品を鑑賞し、思ったことや感じたことを話し合う ・作品のほとんどが黒 ・黒といってもいろいろな黒がある ・細かく描かれている ・鳥や花や動物が多い	A	・対象作品と部分をあらかじめパソコンに取り込んでおき３台のデジタルTVで紹介する。 ・３作品を自由に鑑賞できるようにする。 ・「黒」という色の視点や線、奥行きを意識させる。
	３　３作品から、「保健室に飾りたい作品」を選び、選んだ人同士で選んだ理由を話し合う。	B	・グループ内で司会をたて、モニター前で話し合わせる。画像を指し示しながら、選んだ理由を話し合わせるようにする。異なった意見を一つにしなくてもよいことを助言する。
	４　３作品から、「眠る前に見たい作品」を選び、選んだ人同士で選んだ理由を話し合う。		・話し合いで出された考えや見方に共通項があった時は、司会が発表するように促す。 グループの話し合いで出された考えや見方を全体の場で発表させる。 共通項や造形的な特徴が出された場合は、鑑賞の視点となるように板書して残す。
	５　３作品から、「自分の部屋に飾りたい作品」を選び、理由を鑑賞カードに書く。 ・数人に発表させる		・観賞カードには自由に記述できるものを用意する。
	６　長谷川潔の他作品や簡単な経歴を知る。		・経歴や技法、収蔵されている横浜美術館について簡単に紹介する。